

「日々の理科」(第1385号) 2018 (H30), -4, 22
「目指せコンプリート! 春の野草探し(5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

シロツメクサは一般には「クローバー」と呼ばれている。葉だけをさす場合が多い。通常はハート型の葉が、3枚輪生している。しかし稀に4枚のものもある。いわゆる「四ツ葉のクローバー」だ。「幸運を招く」とも言われ、子どもたちにも人気があるが、そう簡単には見つけれない。しかし「イタドリ広場」には、シロツメクサの大群落があるので、本気になってみんなで探せば、「出荷できるほど」見つかるだろう。



シロツメクサの葉の特徴は、白い弧状の模様があることだ。四ツ葉だと模様がずれるが、通常の三つ葉だと、この白い模様がちょうど円に見える。自然の振舞いや形態には必ず意味がある。この模様にも、虫には特別な色に見えるにちがいない。



「カタバミ」も葉のつき方が似ていて、よくクローバーと間違えられる。しかしカタバミの葉は、よりハート形に近く、白い模様もない。またシロツメクサに比べるとずっと小型だ。(カタバミにも稀に四ツ葉がある)カタバミも教材性の高い野草である。カタバミは漢字では「酢漿草」と書く。葉を噛むと酸っぱい

味がするからだ。これは、葉にシュウ酸、クエン酸、酒石酸などが含まれる為である。人が噛んでも害はないが、ヒツジが食べると中毒を起こすという。



カタバミの花は小さいながらも非常に美しい。よく観察すると、「日なたの花」しか開いていないことに気づいて面白い。



根元に小さな球根があるのも特徴的だ。大きさは1cmほどである。カタバミは、「弾ける種子」「球根」それに「強靱な根」の3つの方法で繁殖する。道端のち

よっとした隙間の土にでも根付く。一旦繁茂すると、駆除が難しいほどだ。そのしぶとさから「家系が絶えない」例えとされ、武家の家紋として好まれた。



晴れた日の午前中、子どもたちは協働して、存分に野草探しを楽しんだ。40分もすると、まとめシートの大半は、実物の野草で一杯になってきた。しかし、どうしても発見できない植物があった。ナズナとハコベである。私はおよその場所を知っていたが、あえてニコニコしながら眺めていることにした。